



「エシカル消費」とは、倫理的な消費という意味で、よりよい社会や地域の発展、人権や環境にも配慮した消費行動を指す言葉です。自分さえよければよいというのではなく、他者のことや環境に配慮した消費をすすめる考え方です。地産地消、フェアトレード製品の購入、食品ロスの削減、マイバック使用などはその身近な例です。

国連で SDGs (持続可能な開発目標) が採択された2015年、ドイツのベルリンで行われた社会実験でアレクサンダー広場に「Tシャツ、たった2ユーロ(=300円弱)」と書かれた自動販売機が設置されました。これを見た人々が安いTシャツを買おうとコインを入れると、モニターに劣悪な労働環境で働く労働者たちの映像が流れます。時給13セント(=13円)以下、1日16時間労働……。映像が終わると「買いますか？ 寄付しますか？」の選択画面が現れ人々は……。 (動画は YouTube で見ることができます)

2ユーロのTシャツは、私たちの消費行動は世界とつながっており、一人ひとりの消費行動が、企業を変え、世の中を変えていく力になることの大切さを伝えています。

DON'T BUY THIS JACKET



エシカルファッション

2011年のクリスマスセールの日、衣料メーカーのパタゴニアは、『NYタイムズ紙』に「買わないで」という広告を出して話題になりました。

パタゴニアの創業者は、「私はいつも地球によいかどうかを優先して利益を上げてきた」といいます。

買う理由のあるジャケットを買おうという、エシカルを強調するこの広告は、企業と消費者のあり方を問う、持続可能な社会に貢献する未来型広告だといわれています。

★参考書:「新しい消費者教育」 これからの消費生活を考える 日本消費者教育学会監修 慶應義塾大学出版会